

浜松市南区にお住まいの手塚海司さんという方をお訪ねしてきました。

手塚さんは、昭和10年生まれの現在84歳。静岡大学教育学部を卒業して、浜松市内の小学校に先生として勤務。最後は追分小学校の校長を務められ、平成7年に退職。

退職後は、地区の自治会長や民生委員などのお役を受けていましたが、他にも何かやれることはないかと思っていたところ、たまたま「浜松観光ボランティアガイドの会」という団体から声がかかり、平成12年に第二期生として入会をされたそうです。



[手塚海司さん](#)



[ボランティアガイド1](#)

浜松観光ボランティアガイドの会というのは、浜松城や浜松駅前で観光客に地元の歴史や文化などを紹介したり、学校・公民館でのふるさと出張講座も手掛けていて、歴史好きが集まった市主催の郷土史講座を母体に平成11年に結成。会員数は100人以上で、ガイド団体としては県内最大の規模を誇ります。

手塚さん「退職してからは、正直やることはありませんでした。絵が好きな人ならば好きな絵を思う存分描きましょうとか、そういうことがあるのでしょうか、私は教育一筋でやってきたので趣味らしい趣味もなかったのです。たまたま当時の会長さんと知り合いで、郷土の歴史にも興味があったし、高校から大学まで演劇をしていたので、大勢の前でしゃべったりすることも苦手ではなかったので、地域のためにお役に立てるのならと思って参加しました」

ボランティアガイドの活動というのは、歴史についての知識が豊富でないと務まらないように思いますが、「案外そうでもない」と手塚さんはおっしゃいます。むしろ説明魔のようになってしまって、自分の知識をひけらかすようなやり方では良いガイドはできないそうで、やはり大切なのはおもてなしの心。お客様が浜松を旅行して楽しい思い出を作ってくださいるよという気持ちが大切なのだそうです。

手塚さん「難しいことはやさしく、やさしいことは深く、深いことは面白く話すのが基本。お客様とふれあいながら、自分も楽しめばいいんです」

平成21年から9年間に亘って会長の役を務められ、手塚さんの代になってからは、郷土愛を高めるための活動の一環として、子供達を集めて歴史講座を開催したり、子供にもガイドを体験させるといった新しい試みも始められたそうです。



[ボランティアガイド2](#)



[ボランティアガイド3](#)

現在は後進に道を譲り、ボランティアガイドの会は退任されましたが、地区の社会福祉協議会の一員としてお手伝いをされたり、グランドゴルフをしたりと、さまざまな活動に参加されているそうです。そのモチベーションの源を伺ってみると、

手塚さんは「家の宗旨は神道なのですが、高校生のころに縁あってキリスト教の日曜学校に行っていました。『親切にしないではいけない』『人のために尽くす』そういう基本的なことは教会で教わったような気がします」

とおっしゃっていました。社会のために尽くすことをご自身の楽しみとし、元気で活動をされているお姿に深い感動を覚えました。最後に、これからシニア世代を迎える方々に対してのメッセージをお願いしました。

手塚さん「何か好きなことを一つもって、それを充実させていく。そして、時には自分のプライドを捨てても、地域の人達にとけ込むように心がけることが大切だと思います。人と人の和を広げていくことが、若さを保つ秘訣なのではないでしょうか」

手塚さんのますますの健康とご活躍をお祈りいたします。合掌

浜松南部地区生きがい特派員 丸山敬